

平成 28 年度 第2回東区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成28年12月22日(木)午後1時30分から午後2時55分まで
会場	東区プラザ 講座室1
出席者	東区自治協議会委員 出席11名 教育委員:織田教育委員, 上田教育委員 事務局:教育総務課長, 教職員課総括管理主事, 地域教育推進課指導主事, 学校支援課課長補佐, 教育相談センター所長 東区教育支援センター所長・指導主事 東山の下小学校長, 東新潟中学校長
議 事	1 開会 2 東区担当教育委員挨拶(織田教育委員, 上田教育委員) 3 懇談 テーマ:「地域の教育力」「家庭の教育力」を生かして、「不登校や引きこもり」の未然防止, 解決をするために, 何ができるだろうか。 (1) 情報提供 新潟市の不登校児童・生徒の現状と未然防止・解消への取組(学校支援課) 東区小中学校の不登校の未然防止・解消への取組 (東山の下小学校長, 東新潟中学校長) 義務教育終了後の不登校・引きこもりへの対策(地域教育推進課) (2) 意見交換
自治協委員	情報提供を聞いて, 一生懸命取り組んでいる様子がよく分かった。早期発見とか, 人間関係づくり, 学習支援, 体験活動, 相談体制と本当によく取り組んでいる。これは, 地域と学校パートナーシップ事業のもとに, 各学校が本当によく取り組んでいることである。しかし, 学校は学校で限界があると感じている。私も小学校と中学校に学習支援のボランティアに入っているが, それだけでは学校だけになってしまう。その中学校では, 月に1回小中学校の校長先生とPTA会長, 民生委員の方々, 子どもたちに関わっている地域の方々, 警察の方, SSTや教育相談センターの指導主事の方々など, メンバー20人ぐらいが情報交換して, そういうことを生み出さない取組もやっている。その結果, 少しずつ減ったり, 何とかもちこたえたりしている。 そう考えると, 地域の力がとても大事になってくる。学校だけでなく, 地域の行事に参加するとか, 家庭を支援するとか, そういった大きな枠組みでやっていかないと, 色々な問題を抱えている不登校の子どもたちは, それぞれ特性をもっているのだから, なかなか改善が難しい。やはり社会で生きていくわけなので, 人との関わりを大事にしなければならない。地域で自信をもてば学校に来られるようになったり, 地域でも活躍できるということが可能になったりしてくるので, その辺を広げていくことが必要だと感じている。
自治協委員	学校の先生が学校に行けない子どものベッドのそばまで行くというお話があったが, 自分の経験から, それはやりすぎだと思っている。せめて玄関先までではないかと。先生方があまり家の中に入り込んでくると, 子どもも親も圧迫されるような気がするのだから, あまり中まで入り込まないほうがいいかと思っている。

子どもにとって、中学校までがどこかに所属しているということで、ある意味「華」である。卒業すると、所属している場所がない、じゃあどうしようという不安が生まれる状況になる。35歳までもいろいろお世話いただけるって、日本はいい国だと思いながら聞いていた。

また、家族の問題も絡んできて、鬱や統合失調症などの症状が早い段階から出てきているので、対応はどうしたものかと思っている。

やはり子ども自身が、将来のイメージを描けるということが大事なことである。学校の人が関わると学校しかないということになってしまうので、学校を卒業した後に、自分はこんなことができるかもしれないとか、こんなことがしたいとか、そんな気持ちを広げられるような、学校以外のかかわりが欲しい。もちろん、本人が望むならば、ということだが。

親御さんにしても、学校に行かないともう先がないと言うのでなく、学校へ行かなくても、その後ちゃんと働いている人もいるという成功体験が見えるといいと思っている。

自治協委員 情報提供のように、学校は限界まで取り組んでいる。これ以上学校に何を望むかといっても大変である。だからこそ今日のテーマが、家庭と地域でできることとなっているわけだが、これは、教育委員会がすることか、学校がすることか。また、次第にある提言は、誰に対する提言か。

今日は、教育委員お二人と懇談して、こんなことを頑張ってもらいたいとか、こういったことをしたらどうかという提言をする時間と解釈しているのだが、そういった解釈でいいのか。

教育委員 今日の内容は、教育長と教育委員8人に伝えるので、委員の解釈のとおり、ぜひ知恵を拝借したい。

自治協委員 学校は限界に近い工夫と対応をしている。先生方に、これ以上の負担をかけるわけにはいかない。そこで、家庭と地域が学校に対して有効な援助ができるようなことはなにかということで、新潟市は、地域教育コーディネーター制度をつくっている。

先日いただいた共育通信から考えたが、教育委員会表彰では、学校中心のものが多く感じている。今回の教育委員会表彰も、ほとんど学校の用務員さんや先生方である。むしろ教育委員会として、地域の力を学校に向かせる方法としては、数年で変わる先生方よりは、地域に居て学校に対していろいろな活動をしてくださる方を表彰する形に変えた方が、地域としても学校に張り合いをもって関わられるのではないかと考えている。

教育といっても、学校教育もあれば社会教育もある。学校は、多忙化や部活動などいろいろな話を聞くので、学校に任せるのではなく、教育委員会として、制度的に地域に学校への関心を持たせるような工夫を考えるのも一つの方法ではないか。

教育委員 今の学校教育では、個性を生かすとかつくるということは、地域の協力がないと難しい。パートナーシップ事業では、コーディネーターが学校に地域のいろいろなことを提供することで、子どもたちが学校での勉強だけでなく、その他のものをつくったり、話し方を勉強したり、昔のものに興味を持ったり、宣伝することに力をかけたりとかしている。

また、そういったことを地域に認められたり、褒めてもらったりすることで、自分の持っている違うものを引き出せるし、それを目にするので、地域への興味も高まっている。

その意味では、教育委員会表彰の中で地域の人を表彰することは、今後考えていく

べきことであり、ありがたいご意見である。

私たちは子どもの話になると、自分の子どもの時には、という物差しになってしまう。今の子どもたちが置かれている物差しにあわせて話し合わないといけないが、そこが分かりにくい。

昔は、長期の休みで、家に居てつまらないと外に出る。すると友達が集まってきて、遊びの社会が出来上がっていた。小さい子どもへの配慮を話し合ったり、親の目のない所で、物事を考えたり協力したりすることが行われていた。

今は、家に居てもCDやDVD、ゲームなどやりたいことができる。学校に来たくないということもあるだろうが、場合によっては、一人で居たいといった時間ができてしまう。そんなことも今後、親と相談して考えていく必要を感じている。

自治協委員

委員のおっしゃる通り、昔の子どもと今の子どもたちを見てみると、一言でいうと精神的な免疫力が違うと思っている。その免疫力がないために過剰な反応をしたり、大人では考えられない行動になったり、わずかなことに敏感に反応したりすることがある。

学校教育は、学力を付けることはもちろん一番大事だが、それ以上に、社会に出て、社会人として適応できるように教育することが一番のベースになければならない。

その意味では、精神的な対人関係について、子どもたちに免疫力をもっとつけてもらいたい。免疫力があれば、例えば、インフルエンザにもかかりにくいように、少しぐらいいじめられても笑って過ごせるような精神的強さが持てる。私も子どもたちが動物のあだ名を付けられても、変なことを考えずに、しかたないなと過ごしてきた。

また、あまりに無菌状態に近くなると、子どもの数が少ないですから、逆に親の手もかかる。みんなで仕事をしているから、それを、じゃあ昔のようになるとするのは、なかなか難しい。昔は昔なりのよさもあったし、ほったらかしにされて育ったというのものもある。

対策は、きめ細かくやっても、結局イタチごっこになる可能性が大きいので、子どもたちの免疫力をもうちょっと何とかするようにお願いしたい。

自治協委員

民生委員として担当している地域に不登校の中学生がいて、長年関わっている。民生委員と学校との恒例というか、定期的な会議はもたれている。そうでなく単独で、例えば、どこそこの民生委員のエリアの中に、不登校のお子さんがいれば、直で呼んでいただき、学校と民生委員1対1でお話を伺えば、地域のイベントの際にお母さんを誘ってみるとか、ゴミだしに行った時に立ち話もできます。一番身近なところの私たち民生委員を使ってもらいたい。そこら辺がもっとも大事なことで、決まりきった大きな会議の時に大雑把な数字を並べるよりも、もっと個別で対応しなくてはいけないうのかなと思っている。

今日のテーマは、私が今、勉強しなければならない、もってこいのテーマだったなと思っているところ。

脱線するが、外国人の親御さんをもつお子さんについて、特に子育ては母親が主になると思うが、お母さんが外国人だと、色々なことに対応するときにも自分の国とかけ離れているところもあって、なかなかどうしたらいいのだろうかという感じの家庭もあると聞いている。

また、ご夫婦がうまくいってないことで影響がある場合は、それはもう学校とは別な問題だと思うが、そんなことを含めて民生委員が対応していけたらいいなと思っている。

私に関わっている学校に行けない子どもの家庭には、お年寄りがいるので、そこをきっかけにして入り込んでいる。直接お母さんやお父さんとお話できない時は、メールで状況を交換したり、学校の方にお伝えしたりしているが、やはり、家庭内のことは微妙でデリケートなことなので、こういうところにお子さんがいられるようですよと私たちの方から学校に声掛けできればいいと思っているし、学校の方からも、こういう方をちょっとしっかりと見守ってくださいと声掛けをいただければ、できると思っている。家庭内の人間関係がよくなれば、他の会話もできるようになると思うので、ぜひ、私たち民生委員を使ってもらいたい。

自治協委員 学校での教育の対応は、色々な面がある。しかし、昔も今も教育の悩みは大小や世の中の情勢によって差はあるかもしれないが、それほど変わりはない。学校での教育も大変だが、家庭での教育が非常に大事である。

ある人に言わせると子どもの一生もの、優しさとか世の中で生きていく力の根源は、2歳までに決まるそうだ。だから、小さな時からの家庭での躰とか関わりが大切で、小学校、中学校で学年が上がるごとに加わる、いろいろな外からの力に対応できるような基礎的なものは、家庭で育むというのが一番大事である。

抽象的だが、家庭での子育てが非常に影響している。昔は昔なりに苦勞もあった。貧しいとか、物質的には恵まれているが、恵まれた分だけ要求があるという世の中になっているので、その辺を共稼ぎが多く忙しいが、できるだけ保護者に学校との接触を重ねていただいて、保護者への教育を大事にしてほしい。

教育の場は学校であるが、生活のほとんどを家庭で過ごすので、家庭での教育も重要であり、そこに地域に関わることも大切である。

自治協委員 私がコーディネーターをしている学校は、地域の人が多く学校に入っている。民生委員の皆さんもほぼ毎日学校に来られているので、保護者や地域のボランティアも含め、色々なところから情報が入ってくる。必要に応じて情報提供を求めることもできる。学校が対応を検討している子どものことを地域の人たちはとっくに知っている場合もある。

子どもたちは、多くの手をかけられているという意見もあったが、逆に母子家庭も大変多くなっている。私の学校のひまわりクラブは地域で管理しているが、利用者の7割ぐらいは母子家庭である。お母さんたちも忙しくて、逆に投げられている状態である。子どもたちは居場所を求めていることを強く感じる。ふれあいスクールにも来ているし、いつもバドミントンを指導してくれる地域の方をお願いして、夜のバドミントンクラブを作ってもらったら、同じようなメンバーが必ず来る。仲間同士で集まって、一緒に参加しているし、中学校に行ってもその子たちは来る。

保護者の方から、本当に困っていることを相談いただくこともあるので、そういう場合には、どこに相談したら対応してもらえるかを確実に伝えるように努力している。

自治協委員 先ほど説明のあった、東新潟中学校の訪問相談員というのは、スクール・ソーシャルワーカーが行くのか。

東新潟中学校長 訪問相談員は、教育相談センターの相談員である。

自治協委員 学校は家庭に入りづらいだろうが、今、二人の委員が話されたように民生委員や地域の方に入ってもらえるとありがたい。

相談に来られた保護者の方に、だれか助けてくれる方の顔が思い浮かぶかと問うと、両親を挙げる方もいるが、いないと答える人もいる。そういう人は、パートの12時から1時の間に子どもにご飯を食べさせに帰る。また、子どもが何時に学校に行きたいというかわからない。子どもも他の人に会いたくないので、母親が送り迎えをしたりするために、12時に送って4時に迎えに行くとする、自分の時間の合間を縫って行かないといけない。そんな時に、民生委員の方のように、誰か助けてくれる方の情報提供があればよい。

今、地域包括ケアとか同時に福祉の関係でケアが進んでいると思うが、子どもの方、教育の方は、家庭のケアが進んでいない。どこかに助けを求めたいけれど、地域にも慣れていないとか、近所の人には言いたくないし、といった時に助けてくれる情報を提供してもらえるように福祉と結び付けられるとよい。

しかし、個人情報への壁がある。例えば、学校に民生委員の方がいらした時に、あのお宅は、あの子もそうだし、下の子ども不登校の傾向があるよと聞いた時に、じゃあ、お昼ご飯ぐらい食べさせに行こうか、相談に乗ろうかということがどこまでできるのか分からない。個人情報は大切な情報だが、どういう扱いになっているのか。地域として入りたいが、どうやって地域から協力ができるか、先ほど紹介の学校のように、把握していても拒まれてしまう場合もある。「みんなで何とかしていきましょう」となるような、福祉と関連した総合システムが新潟市にあるとよい。

困り感を家庭が持っても、どこに持っていったらいいかわからずに、結局学校の先生にしか頼れないとか、相談する所は学校頼みで、地域とか地区に行きづらいということをよく聞くので、いいシステムができたかと思っている。

自治協委員 現在バドミントンの指導をしている。目標を持っていると、子どもは全体に生き生きしている。バドミントン教室を通して、お母さん方とも不安とか心配ごとを話し合えるいい環境にもなっている。

小学校や中学校でも、帰宅部と呼ばれる子どもたちもいると思うが、部活動じゃないが、そんな趣味にみんなが関わられるような場所を作ってもらえると、学習についていけない子ども、その中で友達ができることによって相談もできるので、いい方向に向いていく。やはり、目的を持っている子は輝いていると思っている。

自治協委員 心が折れている保護者をケアしてもらいたい。家庭の教育力が落ちているから子どもが育っていない。手をかけられている子はかけられているし、かけられていない子は、全くかけられていない。この差が大きいなかで勉強、勉強と言われると保護者への負担は大きくなっている。

地域で子どもが活躍できる場を作り、ありがとうと言葉をかけてもらえるとうれしい。

自治協委員 今は、大学でも登校を渋る学生が出てきている。今日の話は、自分の職場でも当てはまることであり、参考にして対応していきたい。

議 事 4 東区担当教育委員挨拶(上田教育委員)

今回の懇談の形もよかったかと思っている。最後の方に頂いた、保護者が何かあった時に相談をもっていける場所は学校しかないというのは難しい問題だが、今後検討して相談先を広げていく必要を感じている。

新潟市は、学・社・民の融合による教育を進めているところだが、今後も地域の人たち

の力を借りながら、子どもが健やかに成長できるように努力していく。また、今後考えなければならないことについては、教育委員全体で検討していく。

5 閉会